

授業概要

保育実習は、保育士の資格を取得するための必修科目で、実際の保育現場の中で、これまで学内の授業で習得した教科全体の知識や技能を基礎として、これらを総合的に実践する応用力を養うために行うものである。したがって、保育実習では、保育現場での体験を通して、保育の理論と実践を結びつけること、学生自身が実習施設における子どもや利用者、保育者と触れ合うことによって、子どもや利用者の様子、保育士の仕事や役割についての理解を深めることを目的としている。

よりよい保育実習を行うためには、「何を学ばなければならないのか」を最初にしっかりと考えなければならず、学生自身が実習の目標や課題を明確にして、主体的に取り組むことが必要不可欠である。

授業計画

- ①実習の第1段階では、子どもの発達の特徴とそれに応じた保育内容を知るために、複数のクラスでの見学・観察実習を行い、保育を全体的に把握し、理解する。
- ②実習の第2段階では、第1段階の実習を継続しながら、固定クラスでの参加実習を行って理解をより深める。できれば、指導計画を立案して部分実習を体験する。
- ③長時間保育を早朝、夕方各1回は経験する。
- ④実習の全期間を通して、保育者の仕事を積極的に手伝う。

到達目標

- ①保育所の内容、機能等を保育所での体験を通して理解する。
- ②既習の教科全体の知識・技能を基礎として子どもへの理解を深めるとともに、これらを総合的に実践する応用力を養う。
- ③保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益と具現化について学ぶ。

履修上の注意

- (1)実習期間：春期は平成28年9月、秋期は平成29年2月の間の2週間（実習園により日程が異なる）である。
- (2)実習時間：実習日数は12日間又は90時間以上を確保する。
- (3)実習先提出物：毎日日誌を提出する。また、実習初日には次の書類を提出する。（健康診断書/麻疹抗体検査または予防接種証明書/細菌検査証明書/その他市区町村から指定された書類等）

予習復習

- 予習 ①実習開始前に事前オリエンテーションを受け、持ち物、服装、出勤時刻、一日や週の流れ、実習期間中の行事予定、実習に使う歌や曲、教材などについて確認する。また、実習施設への通勤経路や所要時間を把握して実習に備える。
- ②実習中は次の日の実習目標をたて、指導計画の立案を適切に行うなど、教材準備等に努める。
- 復習 ①実習中は毎日、実習日誌を記載する。担当保育士からの助言を受け入れ、翌日の実習に生かす。
- ②実践を通して、実習の振り返りに努めるとともに、自己評価や反省を行う。

評価方法

- 実習園による評価および日誌と園への事前書類提出などを総合的に評価する。以下は評価の観点である。
1. 実習態度 指導者の指示に従い保育室の美化や環境の整備を積極的に行うなど、意欲的に学んだか。
 2. 子ども理解 ①子どもを理解するために積極的に関わり、観察したことを適切に記述し、考察したか。
②子どもの健康や安全への配慮が読み取れたか。
 3. 研究態度 ①担当保育士からの助言を受け入れ、実習に生かすことができたか。②実施後の自己評価や反省を行ったか。
 4. 日誌の書き方 ①観察したことが適切に記録されているか。②事実のみを記録すべき所に、感想が書かれていないか。③客観的で分かりやすい表現で書かれているか。④誤字、脱字がないか。
⑤読みやすく、丁寧な文字で書かれているか。

テキスト

埼玉学園大学『平成28年度 保育実習の手引き』
厚生労働省『保育所保育指針 解説書』（フレーベル館）2008年